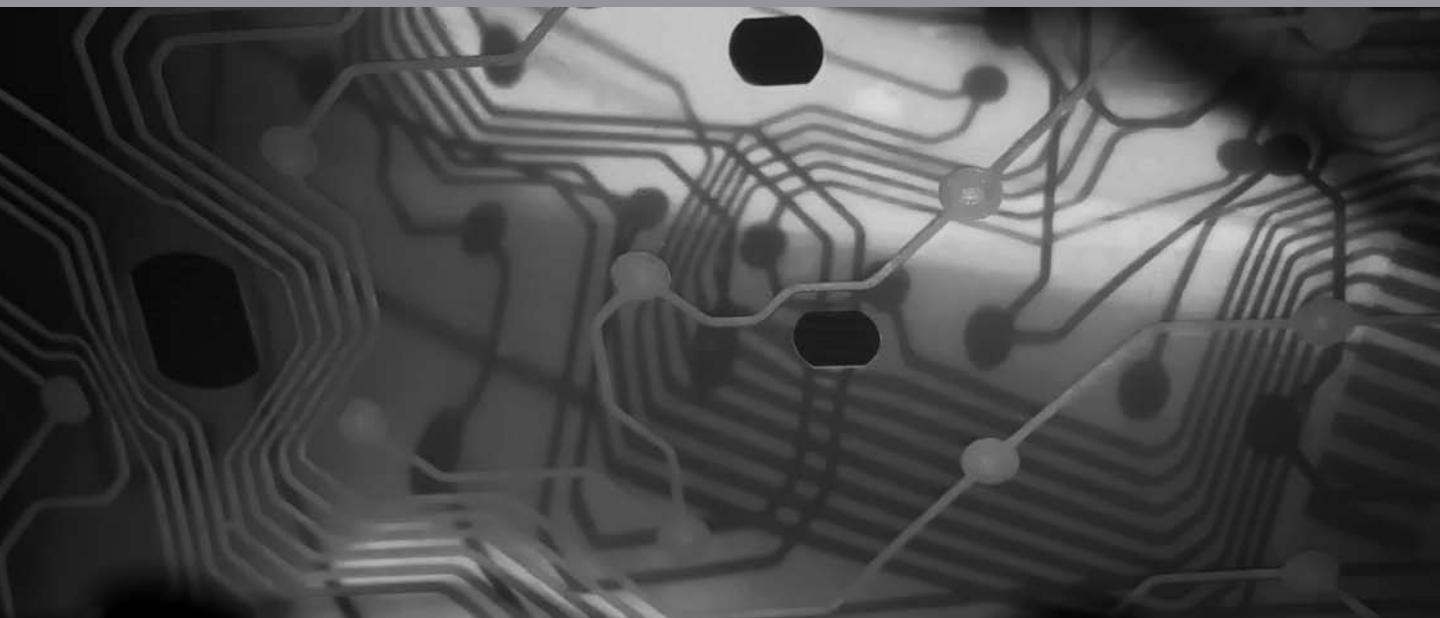




# **Cyclades® ACS Advanced Console Server**

Technical Bulletin

**DSView® 3 Plug-in**



Avocent、Avocentのロゴ、「The Power of Being There」、DSView、およびCycladesは、米国ならびにその他の国における、Avocent Corporationまたは弊社の系列会社の登録商標です。その他すべての商標の所有権は、それぞれの所有者に帰属します。

© 2009 Avocent Corporation. All rights reserved. 590-669-510G

## 目次

操作を開始する前に .....	1
構成ツール .....	2
ACS コンソール・サーバーのプロパティ .....	3
アクセス権 .....	3
ACS コンソール・サーバーの構成 .....	4
ネットワーク・パラメーター .....	4
ダイヤルアップ接続の構成 .....	6
認証の構成 .....	9
ACS コンソール・サーバーの Web マネージャー .....	10
SNMP の構成 .....	11
システム・イベントの構成 .....	12
アプライアンス・アラートの構成 .....	12
データ・ログの構成 .....	13
ACS コンソール・サーバーのシリアル・ポート構成 .....	14
シリアル・ポートの有効／無効 .....	14
シリアル・ポートの一般設定 .....	15
シリアル通信パラメーターの構成 .....	15
複数のユーザーとセッションの構成 .....	16
シリアル・ポートのデータ・ログ .....	17
電源装置の管理 .....	18
電源管理装置の追加と取り外し .....	19
HW 過電流保護のリセット .....	19
電源装置の設定 .....	19
電源装置のソケット .....	22
電源装置の電流 .....	23
電源装置の電圧 .....	24
電源装置の電力消費量 .....	24
電源装置の環境 .....	25
ホスト名の検出 .....	26
TCP ポートの構成 .....	26
セッション設定の構成 .....	27
ACS コンソール・サーバーへの接続名の変更 .....	28



# ACS高度コンソール・サーバー用 DSView 3ソフトウェア・プラグイン

ACSコンソール・サーバー用DSView<sup>®</sup>3管理ソフトウェア・プラグインは、DSView 3ソフトウェアからACSコンソール・サーバーへのアクセス、構成、管理を可能にします。本書に記載する情報は、DSView 3のヘルプおよびCyclades<sup>®</sup> ACSの「インストール・管理およびユーザー・ガイド」に対する補足をなすものです。特定の機能に関する詳細については、該当する製品マニュアルを参照してください。

## 操作を開始する前に

- ACSコンソール・サーバー・プラグインは、DSView 3ソフトウェアに事前にインストールされています。なお、このプラグインの新バージョンが提供されている場合がありますので、必要に応じて、DSView 3のヘルプ（キーワード：プラグイン）の指示に従って最新版をインストールしてください。ネットワーク内の各ハブ・サーバー、スポーク・サーバーのすべてにプラグインがインストールされていることを確認してください。
- ACSコンソール・サーバー・プラグインのバージョン1.3.0以降では、1つのプラグインで1ポート、4ポート、8ポート、16ポート、32ポート、48ポートのACSコンソール・サーバー・モデルをサポートしています。
- ACSコンソール・サーバー・プラグイン3.3.0を操作するには、DSView 3ソフトウェア・バージョン3.6.0.159が必要です。10個または20個のコンセントを装備したアボセントPM 1000、2000、および3000 PDUをサポートするには、DSView 3ソフトウェア・バージョン3.7.1が必要です。
- DSView 3ソフトウェアに統合するには、ACSコンソール・サーバー・ファームウェアのバージョン3.0.0以降が必要です。ファームウェアのバージョン3.3.0以降をお勧めします。コンソール・サーバーのアップグレードが必要な場合、手順説明についてはCyclades ACSの「インストール・管理およびユーザー・ガイド」を参照してください。
- プラグインの追加または管理には、DSView 3ソフトウェアの管理者アクセス権が必要です。
- 本マニュアルにある任意の手順を実行するには、DSView 3管理ソフトウェアのユニット画面で該当するACSコンソール・サーバーを選択します。一部の手順では、ACSコンソール・サーバーに接続されている該当のターゲット・デバイスを選択する必要があります。

注: ACSコンソール・サーバー・プラグインのほとんどの画面には、「保存」と「要フラッシュ」の2つのボタンがあります。「保存」ボタンは、構成の変更内容をDSView 3サーバーのデータベースおよびACSコンソール・サーバーのRAMに保存します。「要フラッシュ」ボタンは、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリー・カードに恒久的に保存します。

## 構成ツール

以下の表に示すタスクを実行するために、ACSコンソール・サーバー・プラグインはDSView 3管理ソフトウェア・ツールと統合されています。これらのツールには「ユニット概要」ページからアクセスできます。

表 1: 構成ツール

アプライアンス/ツール	詳細
名前	ACSコンソール・サーバーの名前を変更します。英数文字、ハイフン (-) またはアンダースコア (_) のみを使用します。
タイプ	編集不可のフィールド。ACSコンソール・サーバーのタイプを表示します。
再起動	すべてのアクティブ・セッションを終了してコンソール・サーバーを再起動します。
ファームウェアのアップグレード	DSView 3ソフトウェア・サーバーを介してファームウェアをアップグレードします。DSView 3サーバーのファームウェア・レポジトリ内に、有効なフラッシュ・ファイルが存在している必要があります。
再同期	ACSコンソール・サーバーと接続されているターゲット・デバイス内の構成情報をDSView 3サーバーのデータベースと同期します。
電源装置の管理	ACSコンソール・サーバーとターゲット・デバイスに接続されている電源装置の構成および管理を行います。
アプライアンス・セッション	ACSコンソール・サーバーのLinuxコマンド・ラインへのSSH接続を使ってビューアを起動します。ターゲット・デバイスとのシリアル・セッションに使用するアプリケーションを指定できます。オプションについては、 <b>プロファイル → アプリケーション → シリアル・セッション</b> の順に選択します。
構成の保存	ACSコンソール・サーバーの構成データをDSView 3サーバー・データベースにバックアップします。DSView 3サーバーから、設定ファイルのバックアップのためのファイル名を入力するよう指示があります。
構成の復元	前に保存した構成を復元します。DSView 3サーバーの設定ファイルのレポジトリ内に、有効な設定ファイルが存在している必要があります。
構成をフラッシュに保存	ACSコンソール・サーバーの構成データをフラッシュ・メモリーに保存します。

## ACSコンソール・サーバーのプロパティ

次の表に記載のプロパティを、「ユニットIDプロパティ」のページから変更することができます。

表 2：プロパティ構成

プロパティ	詳細
ID	資産管理に使用することができる ID プロパティ。
ロケーション	コンソール・サーバーの物理的な場所の情報。
連絡先	コンソール・サーバーの第 1 管理者および第 2 管理者の連絡先。これらの管理者はユニットで問題があると通知を受けることになります。
カスタム・フィールド	3 つのカスタム・フィールド。これに特定の情報を指定すると、ACS コンソール・サーバーのネットワーク上での確認がさらに容易になります。
メモ	コンソール・サーバーに関する追加コメント。たとえば、ユニットの説明または関連する経費別部門など。
ネットワーク	ACS コンソール・サーバー・アプライアンスの静的 IP アドレスと DSView ソフトウェア・サーバーの IP アドレス。

プロパティを表示または変更するには：

1. 「ユニット」タブから、構成するACSコンソール・サーバーを選択します。
2. サイド・ナビゲーション・バーの **プロパティ** をクリックします。
3. 希望するプロパティを変更します。 **保存** をクリックして、 **閉じる** をクリックします。

## アクセス権

ACSコンソール・サーバー・プラグインは、アクセステ権を管理するため、DSView 3ソフトウェアのライセンス機能と統合されています。DSView 3サーバーは、管理対象となるデバイスにアクセス権を割り当てるほか、ACSコンソール・サーバー・プラグインを使用してコンソール・サーバーの特定の機能へのアクセスを管理します。管理者は、以下のタスクへのユーザーまたはグループのアクセスを管理することができます。

- ユニット情報の参照
- アプライアンスの再起動とセッションの接続解除
- コンソール・サーバーのフラッシュ・アップグレード
- ユニット設定の構成
- ビューア・セッションの確立
- ターゲット・デバイスの電源制御
- データ・ログの表示

**アクセス権を構成するには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アクセス権** をクリックします。
2. 「ユーザー」および「ユーザー・グループ」ウィンドウから値を選択します。アクセス権マトリックスによって各機能に適したデフォルト値が表示されます。

希望するユーザーまたはユーザー・グループが表示されない場合は、*リストの編集* をクリックしてください。ユーザーまたはユーザー・グループを「利用可能」ダイアログ・ボックスから「更新する一覧」ウィンドウに加え、*OK* をクリックします。

3. アクセス権を有効または無効にします。以下のオプションが利用可能です：
  - ・ 許可する — ユーザー／グループに対してアクセス権が許可されます。
  - ・ 拒否する — ユーザー／グループに対するアクセス権が拒否されます。
  - ・ 引継ぎ — アクセス権は、選択したユーザー／グループが属するユニットから引き継がれます。引継ぎが選択されると、「許可する」と「拒否する」はグレー表示になり使用できなくなります。

チェックボックスに1つもチェックがない場合、そのアクセス権は許可でも拒否でもなくなります。

## ACSコンソール・サーバーの構成

DSView 3ソフトウェアを使用して以下のACSコンソール・サーバーの設定を構成することができます。

- ・ ネットワーク・パラメーター
- ・ 認証方法とDSView 3ソフトウェア認証サーバー
- ・ ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーの有効／無効
- ・ SNMPトラップ、Syslogまたはシステム・イベントの構成
- ・ ACSコンソール・サーバー・ポートの構成
- ・ 電源装置の構成とターゲット・サーバーでの電源管理
- ・ データ・ログの構成

### ネットワーク・パラメーター

デュアル・スタック・ホストとして、1つのACSコンソール・サーバーでIPv4用に構成されたサーバーとIPv6用に構成されたサーバーの両方を管理できます。

---

**注：** IPv6またはDNSのアドレスを構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

---

**ネットワーク・パラメーターを構成するには：**

1. ACSコンソール・サーバーを選択してから、サイド・ナビゲーション・バーで *アプリケーションの設定* → *ネットワーク* をクリックします。



2. (オプション) アプライアンスでIPv4を有効にし、構成するには、*IPv4の構成* を選択します。
  - a. *IPv4を有効にする* を選択します。

アドレスを定義するには、*静的 (ユーザー定義)* を選択します。各フィールドにIPv4のアドレス、サブネット・マスク、ゲートウェイを入力します。  
—または—  
DHCPサーバーから値を取得するには、*DHCP* を選択します。アドレス、サブネット、ゲートウェイが自動で入力されます。
  - b. *保存* をクリックします。
3. (オプション) アプライアンスでIPv6を有効にし、構成するには、*IPv6の構成* を選択します。
  - a. *IPv6を有効にする* を選択します。
  - b. プラグインでアプライアンスを自動構成するには、*ステートレス構成のみ* を選択します。

—または—  
アドレスを定義するには、*静的 (ユーザー定義)* を選択します。各フィールドにIPv6のアドレス、プレフィックス、ゲートウェイを入力します。  
—または—  
DHCPサーバーから値を取得するには、*DHCP* を選択します。アドレス、サブネット、ゲートウェイが自動で入力されます。DHCPサーバーからサーバー名を取得するには *DNS* を、ドメイン名を取得するには *ドメイン* を選択します。
  - c. *保存* をクリックします。
4. (オプション) ACS コンソール・サーバーに 2 つの DNS サーバーを構成するには、*DNS* を選択します。
  - a. サーバーのアドレスを定義するには、*静的 (ユーザー定義)* を選択します。各フィールドにIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。

—または—  
DHCPサーバーからサーバーのアドレスを取得するには、*DHCP* を選択します。アドレスが自動で入力されます。
  - b. *保存* をクリックします。
5. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

ACSコンソール・サーバーのネットワーク設定に変更を行った場合は、必ず、*ユニット → プロパティ → ネットワーク* を順に選択して、*ユニットのネットワーク・プロパティ* を更新してください。

#### **IPアドレスを未構成のACSコンソール・サーバーにブッシュするには：**

新しいACSコンソール・サーバーを追加する場合、AIDP (Avocent Install and Discover Protocol) によって、DSView 3ソフトウェアがDHCPを使用したり、静的なIPv4またはIPv6アドレスを未構成のアプライアンスに割り当てることができます。

1. 「アプライアンスの追加」ウィザードで、*アプライアンス・タイプの指定* の下でアプライアンスを選択して、*次へ*をクリックします。
2. ACSコンソール・サーバーにIPアドレスが指定されていない場合は、*いいえ、ACSはまだ構成されていません*を選択し、*次へ*をクリックします。
3. *IPv4* を選択して、ACSコンソール・サーバーにIPv4アドレスを割り当てます。各フィールドにIPv4のアドレスとサブネット・マスクを入力します。アドレスを定義するには、*静的*を選択し、オプションで該当するフィールドにゲートウェイを入力します。DCHPサーバーからアドレスを取得するには、*DCHP*を選択します。

—または—

*IPv6* を選択して、ACSコンソール・サーバーにIPv6アドレスを割り当てます。メニューから、マルチキャスト・メッセージの到達範囲を選択します。*静的*を選択し、各フィールドにIPv6のアドレス、プレフィックス長、オプションでゲートウェイを入力します。DCHPサーバーからアドレスを取得するには、*DCHP*を選択します。

4. 画面上の手順説明に従って、「アプライアンスの追加」ウィザードを終了します。

## ダイヤルアップ接続の構成

ACSプラグインのバージョン1.2.1では、アプライアンスへのバックアップ接続として、モデムまたはISDNを経由したダイヤルアップ・アクセスを構成することができます。アプライアンスは、ダイヤルイン、ダイヤルバック、ワンタイム・パスワード（OTP）付きダイヤルイン用に構成できます。

ダイヤルアップ接続機能は、*アプライアンスの設定* → *ダイヤルアップ* のノードから構成します。このノードからは、「設定」と「外付けモデム」の2つのページが利用できます（「設定」ページでモデム・タイプとして *外部* が選択された場合は、サブページがあります）。

**注：**ダイヤルアップを構成するには、*ユニット設定の構成* を実行する権限が必要です。この権限がない場合、現在の設定の参照だけができます。

次の表は、この画面上にあるフィールドの概要です。

**注：**ダイヤルアップは、プライマリ・ネットワークを使ってアプライアンスにアクセスできる場合のみ構成できます。

表 3：ダイヤルアップ構成

フィールド	制御のタイプ	詳細
ダイヤルアップを有効にする	チェックボックス	モデムだけを参照します。オンにした場合、DSView 3ソフトウェアはプライマリ・ネットワークが使用できないときにモデムまたはISDN接続を使用します。
モデム・タイプ	オプション・ボタン	ISDN PCMCIA、アナログPCMCIAおよびアナログ外部から選択できます。 <b>注：</b> ISDNはOTPでは使用できません。アナログ外部はOTPおよびダイヤルバックでは使用できません。

表 3：ダイヤルアップ構成（続き）

フィールド	制御のタイプ	詳細
セキュア・ダイヤルイン	チェックボックス	アプライアンスの着信コールで発信者を検証する場合は、このチェックボックスを選択します。選択した場合、許可されたりリモート番号に登録されている電話番号だけがアプライアンスに受け入れられます。選択しない場合、アプライアンスは任意の電話番号からの着信コールを受け入れます。
許可されているリモート番号	文字列	セキュア・ダイヤルイン（チェックボックス）が有効な場合にアプライアンスが受け入れる、ユーザーが選択した電話番号のリストです。電話番号はスペースをささずに入力し、追加する各電話番号の間はカンマで区切ります。
シリアル・モデム・ポート	コンボ・ボックス	外付けモデムが接続されているアプライアンスのポート番号。
アプライアンスの電話の識別番号	読み取り専用文字列	アプライアンスの電話番号のプレフィックスです（アプライアンスに着信するために必要です）。システム → DSViewサーバー → プロパティで設定します。
アプライアンスの電話番号	文字列	DSView 3ソフトウェアがアプライアンスにダイヤルするときに使用する電話番号を入力します。
PPPユーザー	文字列	モデムまたはダイヤルバックのユーザーのユーザー名を入力します。
PPPパスワードの変更	チェックボックス	このフィールドにチェックを入れると、「PPPパスワード」フィールドにパスワードを入力できるようになります。チェックを外すとフィールドは無効になります。
PPPパスワードとPPPパスワードの確認	パスワード	このパスワードを使用して、ダイヤルバックまたはダイヤルアウトのユーザーを認証します。無効になっている場合、プラグインは以前に設定されたパスワードを使用します。
PPP認証プロトコル	コンボ・ボックス	認証方法として、PAPとCHAPのいずれかを選択します。
PPPユーザー認証（PAM）	コンボ・ボックス	これはPPPユーザー用に推奨される認証方法です。PPPユーザーはコンソール・サーバーのローカル・ユーザーとして作成されるため、ローカル認証を選択することをお勧めします。別の認証方法を希望する場合、PPPユーザーは認証サーバーで作成する必要があります。また、たとえDSView 3ソフトウェアのダイヤラーとコンソール・サーバー間が接続されていない場合でも、認証サーバーにアクセスできる必要があります。 <b>注：</b> ACSコンソール・サーバーのファームウェアのバージョンが3.0.xで、モデム・タイプにISDN PCMCIAまたはアナログPCMCIAを使用している場合、PAMはユニット認証と同一に設定して、ユニット認証をローカルに設定する必要があります。または、PPPユーザーがアプライアンスにログインできるように認証サーバーを設定することができます。
PPPローカルIPアドレス	表示のみ	最初の構成時には、これらのテキスト領域は空白なので、「PPP IPアドレスの設定」チェックボックスを選択して、PPPローカルIPアドレスを割り当てる必要があります。以前に構成したことがある場合、そのPPPローカルIPアドレスがここに表示されます。
PPPアプライアンスIPアドレス	表示のみ	最初の構成時には、これらのテキスト領域は空白なので、PPP IPアドレスの設定チェックボックスを選択して、PPPアプライアンスIPアドレスを割り当てる必要があります。以前に構成したことがある場合、そのPPPアプライアンスIPアドレスがここに表示されます。

表 3 : ダイアルアップ構成 (続き)

フィールド	制御のタイプ	詳細
PPP IPアドレスの設定	チェックボックス	PPPローカルIPアドレスとPPPアプライアンスIPアドレスのフィールドが空白の場合や、新しいIPアドレスを割り当てる場合に、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、自動またはアドレスの手動選択の2つのオプション・ボタンのいずれかを選択できます。
アドレスの自動選択	オプション・ボタン	このオプション・ボタンを選択すると、DSView 3ソフトウェアは、「システム - DSViewモデム・セッション」のページで指定してあるアドレス範囲からPPP IPアドレスを割り当てます。
アドレスの手動選択	オプション・ボタン	PPPローカルIPアドレスとPPPアプライアンスIPアドレスをそれぞれのフィールドに手動で入力するには、このボタンを選択します。
PPPローカルIPアドレス	文字列	PPP接続用のローカルIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。
PPPアプライアンスIPアドレス	文字列	PPP接続用のアプライアンスIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。
ダイアルバックを有効にする	チェックボックス	ダイアルバック・モードを有効／無効のどちらにするか選択します。ダイアルバックは、OTPや外付けモデムでは使用できません。DSView 3ソフトウェアでダイアルバック電話番号が構成されている場合のみ有効にできます。
ダイアルバック識別番号	文字列	このプレフィックスは、リモートのアプライアンスがDSView 3ソフトウェアにダイアルバックするために使用されます。このフィールドは、ダイアルバックが有効になっていない場合は無効になります。
ダイアルバック・アナログ電話番号	「読み取り専用テキスト」フィールド	このフィールドは、DSView 3ソフトウェアのアナログ線の電話番号を表示します。電話番号は、システム → DSViewサーバー → プロパティで設定します。
ダイアルバックISDN電話番号	「読み取り専用テキスト」フィールド	このフィールドは、DSView 3ソフトウェアのISDN回線の電話番号を表示します。電話番号は、システム → DSViewサーバー → プロパティで設定します。
OTPを有効にする	チェックボックス	ダイアル接続においてOTPを有効／無効のどちらにするか選択します。ダイアルバックやISDNには機能しません。OTPに関連するすべてのフィールドは、このフィールドのチェックが外れている場合は無効になります。
OTPユーザー	文字列	OTPに使用されるユーザー名。
OTPシーケンスの自動更新	オプション・ボタン	OTPシーケンスを定期的に手動で更新する必要性がなくなります。これは、コンソール・サーバーがPPPの確立中にシーケンスをリセットする必要があるか問い合わせた際に、DSView 3ソフトウェアが応答すべき内容を知るために必要です。
OTPシーケンスの手動更新	オプション・ボタン	シーケンスを手動でリセットする場合に選択します。
今すぐシーケンスをリセット	チェックボックス	このチェックボックスを選択するとシーケンスがリセットされます。
OTPランダム・パス・フレーズ	オプション・ボタン	パス・フレーズをランダムに生成するために使用します。これを使用すると、「OTPパス・フレーズ」フィールドは無効になります。これにより、ブラグインはその時点でランダムなパス・フレーズを生成します。
OTP設定パス・フレーズ	オプション・ボタン	該当するフィールドにパス・フレーズを手動で入力します。

表 3 : ダイアルアップ構成 (続き)

フィールド	制御のタイプ	詳細
OTPパス・フレーズの変更	チェックボックス	このボックスをチェックすると、「OTPパス・フレーズ」フィールドにパスワードを入力できるようになります。
OTPパス・フレーズとOTPパス・フレーズの確認	パスワード	これはOTP暗号化に使用するパス・フレーズです。
外付けモデム (サブページ)	プルダウン	ボー、データ・ビット、フロー制御、パリティ、ストップ・ビット、およびDCDに対して適切な値を選択して、外付けモデムを使用してダイヤルイン接続ができるようにACSコンソール・サーバーを構成します。外付けモデムは、ダイヤルバックまたはOTPIに対しては構成できません。

## 認証の構成

ACSコンソール・サーバー・プラグインを使用すると、利用可能な中央認証タイプのうちの2種類 (DSView 3管理ソフトウェアまたはRadius認証サーバー) を構成できます。

### DSView 3管理ソフトウェアの構成

DSView 3ソフトウェアで中央認証を有効にするには、まずDSView 3ソフトウェア認証の3種類のタイプ (DSView、DSView/ローカルまたはDSViewDownローカル) の中から1つを選択します。DSView 3ソフトウェアの中央集中型認証サービスが構成されると、DSView 3ソフトウェア・サーバーを使用してACSコンソール・サーバーへのユーザー・アクセス認証が行われるようになります。

### DSView 3ソフトウェア認証タイプを選択するには :

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *認証タイプ* をクリックします。
2. ドロップダウン・リストから認証タイプを選択します。 *保存* をクリックします。
3. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

「アプライアンス認証サーバー — DSView」ページでは、DSView、DSView/ローカル、またはDSViewDownローカルの認証方法用としてDSView 3ソフトウェア認証サーバーを4台まで構成することができます。

**注 :** IPv6のアドレスを構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

### DSView 3ソフトウェア認証サーバーを構成するには :

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *認証サーバー* → *DSView* をクリックします。
2. ネットワークにあるDSView 3ソフトウェア認証サーバーのIPv4またはIPv6のアドレスを入力します (最高4台) 。 *保存* をクリックします。

3. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

### Radius認証サーバーの構成

ACSコンソール・サーバーはRadius認証サーバーもサポートしています。「アプライアンス認証サーバー - Radius」ページでは、Radius認証サーバーを4台まで構成することができます(Radius認証サーバー2台までと、Radiusアカウントティング・サーバー2台まで)。

#### Radius認証サーバーを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *認証サーバー* → *Radius* をクリックします。
2. ネットワークにあるRadius認証サーバー4台までのIPv4またはIPv6のアドレスを入力します(認証サーバー2台までとアカウントティング・サーバー2台まで)。
3. 「シークレット」フィールドに、Radiusサーバー構成に伴うシークレット(固有情報)を入力します。
4. 「タイムアウト」フィールドに、ACSコンソール・サーバーがRadiusサーバーの応答を待つ際の待機時間(再試行するまでにどれだけ待つか)を秒単位で入力します。
5. 「再試行」フィールドに、Radiusサーバーが無応答の場合は何回再試行してから2番目のサーバーで認証を試みるかの回数を入力します。
6. サービスタイプの属性チェックを有効にする チェックボックスを選択して、Radiusサーバーからのサービス・タイプ属性に従ってユーザー・レベル(admin ユーザーまたは標準ユーザー)を取得することをACSコンソール・サーバーに許可します。
7. 保存 をクリックします。
8. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

### ACSコンソール・サーバーのWebマネージャー

「Webサービス」ページから、ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーへのアクセスを有効／無効にすることができます。ACSコンソール・サーバーへの直接アクセスが求められる場合は、このWebサービスを有効にする必要があります。

#### ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーへのアクセスを有効または無効にするには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *Web* をクリックします。
2. ドロップダウン・リスト から Webマネージャーの新しい状態を選択します。保存 をクリックします。
3. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## SNMPの構成

DSView 3サーバーとACSコンソール・サーバー間での管理情報の通信には、SNMPのバージョン1およびバージョン2のプロトコルが使用されます。DSView 3ソフトウェアでSNMPの構成を行う場合には以下の制限が適用されます。

- DSView 3ソフトウェアで構成できるのは、SNMP読み取り／書き込みコミュニティただ1つのみです。
- DSView 3ソフトではSNMPバージョン3に対する構成はできません。

複数のSNMPコミュニティあるいはSNMP 3バージョンの構成は、ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーを有効にし、使用してください。詳細については、ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーのセクションおよびCyclades ACSの「インストール・ガイド」を参照してください。

以下の設定が、サイド・ナビゲーション・バーのSNMPの下に表示されます。

- システム — SNMPサーバーを割り当てる、あるいは有効または無効にします。SNMPを有効にすると、管理アプライアンスはSNMPメッセージをログに保存するために着信トラップをリッスンします。
- マネージャー — SNMP管理ステーションを割り当てます。最高で4台までの管理ステーションが許可されます。
- コミュニティ — デバイスとSNMPを稼動する管理ステーションが属するアクセス環境を定義します。
- 送信先 — SNMPトラップが送信されるホストのIPアドレスを入力します。SNMPトラップ送信先は、「イベント」メニューを使用して有効にします。「システム・イベントの構成」セクションを参照してください。

**注：**IPv6のアドレスを構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

### ACSコンソール・サーバーのSNMPパラメーターを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *SNMP* をクリックします。
2. システム・メニューからSNMPを有効にします。必要に応じて管理アプライアンスの名前と説明を変更して、連絡先を入力します。 *保存* をクリックします。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *マネージャー* をクリックして、SNMP管理ステーション（最高で4台まで）のIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。 *保存* をクリックします。
4. サイド・ナビゲーション・バーで *コミュニティ* をクリックして、読み取り、書き込みおよびトラップのSNMPコミュニティ名を入力します。 *保存* をクリックします。
5. サイド・ナビゲーション・バーで *送信先* をクリックして、SNMPトラップ送信先（最高で4つまで）のIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。 *保存* をクリックします。

## システム・イベントの構成

### SNMPトラップとSyslogメッセージ

ACSコンソール・サーバーは、以下の送信モードを使用してシステム・イベントの通知を送信するように構成できます。

- **SNMPトラップ** — システム・イベントはDSView 3 ソフトウェアのイベント・データベースに経由され、記録されます。オプションとしてSNMP管理システムに記録することも可能です。
- **Syslog** — システム・イベントはDSView 3ソフトウェアのイベント・データベースに収録されます。

### SNMPトラップとsyslogを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定 → イベント → トラップ／Syslog** をクリックします。
2. 希望するイベントを起動して、**SNMPトラップを有効にする** または **Syslogを有効にする** の通知モードをクリックします。「フィルター」フィールドを使用して検索ストリングを含むイベントを表示することができます。
  - Syslog通知モードを選択している場合は、必ず、**システム → データ・ログ → SysLog サーバー** を選択してSyslogサーバーを有効にし、保存してください。
  - SNMPトラップ通知モードを選択している場合は、**アプライアンスの設定 → SNMP → 送信先** を順に選択し、トラップの送信先を指定します。
3. **要フラッシュ** をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## アプライアンス・アラートの構成

定義したイベントに対するアラート・ストリングを構成して、アラート・ストリングを含むシステム・イベントが発生したときに電子メール通知をトリガーさせることができます。表示フィールドには最高10個のアラート・ストリングを入力できます。

### アプライアンス・アラートと電子メール通知を有効にするには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定 → イベント → アプライアンス・アラート** をクリックします。
2. **アプライアンス・アラートを有効にする** をクリックして、希望するテキスト・ストリングを **アラート・ストリング** フィールドに入力します。
3. **要フラッシュ** をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。
4. 「レポート」タブに移動し、サイド・ナビゲーション・バーで **電子メール通知** をクリックします。
5. **追加** をクリックして、「電子メール通知の追加」ウィザードを起動します。次へ をクリックします。
6. 電子メール・アドレスのプロパティを構成します。次へ をクリックします。



7. 電子メール通知をトリガーさせたいイベントを選択して、「通知するイベント」ウィンドウに追加します。次へをクリックします。
8. 電子メール通知をトリガーさせたいユニット・グループ（1 つまたは複数）を追加します。次へをクリックして、完了をクリックします。

## データ・ログの構成

ACSコンソール・サーバーのプラグインは、DSView 3管理ソフトウェアと統合し、コンソール・サーバーおよび接続下のターゲット・デバイスへのコンソール接続のデータ・ログをSyslogプロトコルの使用によりサポートします。データ・ログ機能を使用すると、以下が実行できます：

- ACSコンソール・サーバーまたは各個別のシリアル・ポートでのデータ・ログの有効または無効。
- データ・ログ・メッセージ送信先のDSView 3サーバーの構成。
- SyslogサーバーとSSHサーバー・ポートの構成。
- ACSコンソール・サーバーでのSSHパラメーターの構成。

### データ・ログを有効または無効にするには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定** → **データ・ログ** → **構成** をクリックします。
2. コンソール・サーバーまたは個別のシリアル・ポートへの接続を選択して、有効または無効ボタンをクリックします。
3. **要フラッシュ** をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

### データ・ログ用にSyslog SSHサーバーを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定** → **データ・ログ** → **設定** をクリックします。
2. 同一のハブ／スポーク・システムに属するDSView 3サーバーのIPv4またはIPv6のアドレスを入力します。
3. SyslogサーバーとSSHサーバーのポート番号を入力して、SSHトンネリング用にACSコンソール・サーバーを構成します。デフォルトのSSHサーバーのポート番号はTCP 4122で、Syslogサーバーのポート番号はTCP 4514です。

**注：** Syslogサーバー、SSHサーバーの両方がデータ・ログに対して有効になっていることを確認してください。確認するには、「システム」タブから **SSHサーバーとデータ・ログ** → **サーバーの設定** をクリックしてください。

4. シリアル・ポートで NFS データ・ログが使用されている場合は、該当するフィールドにNFS送信先を入力します。
5. **保存** をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
6. **要フラッシュ** をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

**データ・ログ・ファイルの表示：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで **セッション・ファイル** をクリックします。
2. 表示可能なコラムのリストを変更するには、**カスタマイズ** ボタンをクリックして、希望するフィールドを「利用可能なフィールド」ウィンドウから追加します。
3. **保存** または **デフォルト** として **設定** をクリックしてから **閉じる** をクリックします。
4. ファイルの内容を表示するには、ファイル名をクリックします。テキスト・ファイルがDSView 3ソフトウェアでのデフォルトのテキスト・ビューアを使用して開きます。

**ACSコンソール・サーバーのファームウェア情報**

アプライアンスの**設定** → **バージョン** に移動すると、ACSコンソール・サーバーの起動コードとファームウェアのバージョンを参照できます。

**ACSコンソール・サーバーのシリアル・ポート構成**

「ポート」ページからは次のタスクを実行できます：

- ・ シリアル・ポートの有効／無効。
- ・ シリアル・ポートの名前の変更と名前のプッシュ／プル操作の開始。
- ・ シリアル・ポートの認証方法の構成。
- ・ シリアル・ポートの接続プロトコル、ブレイク・シーケンス、通信パラメーターの構成。
- ・ 複数のユーザー／セッション用のシリアル・ポートの構成
- ・ ポート・アラートの構成。
- ・ データ・ログの構成。

**シリアル・ポートの有効／無効**

**シリアル・ポートを有効または無効にするには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定** → **ポート** → **シリアル** をクリックします。シリアル・ポートのリストが表示されます。
2. 希望するポートの隣に付いているチェックボックスをオンにして、**ポートを有効にする** または **ポートを無効にする** ボタンをクリックします。
3. **要フラッシュ** をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

---

**注：**このページで全シリアル・ポートの状態を参照できます。各ポートのタイプ（プロトコル）は、ACSコンソール・サーバーのWebマネージャーから構成できます。詳細については、「ACSコンソール・サーバーのWebマネージャー」のセクションおよびCyclades ACSの「インストール、管理およびユーザー・ガイド」を参照してください。

---

## シリアル・ポートの一般設定

シリアル・ポートの一般設定を構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *シリアル* をクリックします。シリアル・ポートのリストが表示されます。
2. 希望するポート番号をクリックします。「一般情報」ページが表示されます。
3. ACSコンソール・サーバーのシリアル・ポートの名前を変更するには、「アプライアンス内の名前」に希望する名前を入力します。これはACSコンソール・サーバーのターゲット・デバイス名である場合があります。
4. ドロップダウン・リストからこのシリアル・ポートに適した認証タイプを選択します。DSViewソフトウェアはグローバルな認証方法です。
5. ターゲット・デバイスへの接続用に希望するプロトコルを選択します。

---

注：シリアル・ビューアはSSHとSSH/Telnetのみに対応しています。

---

6. ブレーク・シーケンスをシリアル・ポートに送信するための所定の文字列を入力します。デフォルトは、**~break [Ctrl-b]**となっています。
7. メニューから *CR*の後、なし、または *CR*の後はNULL の改行抑制を選択します。
8. 該当するフィールドにアイドル・タイムアウト（分）を入力します。
9. メニューから、シリアル・ビューア・セッションのターミナル・タイプを選択します。シリアル・ビューア・セッションでWindows EMSターミナルをエミュレートするには、*Windows EMS* を選択します。

ターミナル・タイプおよびWindows EMSの選択が適用されるのは、シリアル・ビューアがACSコンソール・サーバーから起動されている場合に限りです。シリアル・ビューアがDSView 3ソフトウェアから起動されている場合、これらの設定は適用されません。

---

注：シリアル・ビューアの設定を構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

---

10. *保存* をクリックして、変更内容をDSView 3ソフトウェアのデータベースに保存します。
11. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## シリアル通信パラメーターの構成

DSView 3ソフトウェア内のシリアル・デバイスで通常使用できる通信オプションに加え、シリアル・ポートの次の通信パラメーターを設定することもできます：

- 使用モデムの電源がオンで、有効になっているかどうかの検出。
- データ・キャリア検出（DCD）信号のモニター。この設定を行うと、シリアル・コンソールのケーブルがコンソール・サーバーから取り外された場合やコンソール・サーバーに接続されているターゲット・デバイスの電源がオフになった場合に、システムでアラームを生成させることができます。

### シリアル通信パラメーターを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *シリアル* をクリックします。
2. 構成するシリアル・ポートをクリックします。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *通信* をクリックします。
4. 通信パラメーターとDCD信号を構成します。

---

**注：**通信設定はターゲット・デバイスの設定と同一にする必要があります。

---

5. *保存* をクリックして、変更内容をDSView 3サーバー のデータベースに保存します。
6. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## 複数のユーザーとセッションの構成

ACSコンソール・サーバーでは、同時に複数のユーザーが単一のシリアル・ポートに接続できるようになっています。

### 複数のユーザーとセッションを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *シリアル* をクリックします。
2. 構成するシリアル・ポートをクリックします。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *マルチユーザー* をクリックします。
4. *複数のセッションを有効にする* チェックボックスを有効にします。
5. 「複数セッションの設定」のプルダウン・メニューからいずれかのオプションを選択します。次表は利用可能なオプションについての説明です。

**表 4：複数セッションの設定**

複数セッションの設定 詳細	
×	マルチ・セッション非対応。ユーザー2人のみが同一ポートに同時にアクセス可能。共有セッション（x1）、通常セッション（x1）。
読み取り／書き込み （メニューを表示）	3人以上のユーザーが同一のシリアル・ポートに同時にアクセス可能。 スニファー・メニューが表示され、次の項目を選択できます： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スニフ・セッションを開始する</li> <li>・ 読み取り／書き込みセッションを開始する</li> <li>・ 接続を解除する</li> <li>・ 同一シリアル・ポートに接続中の他のユーザーにメッセージを送信する</li> </ul>
読み取り／書き込み （メニューは非表示）	読み取り／書き込みセッションが開始され、スニファー・メニューは表示されません。
読み取り専用 （メニューは非表示）	読み取り専用セッションが開始され、スニファー・メニューは表示されません。

6. 「特権ユーザー」フィールドに、マルチユーザー共有セッションへのアクセス権があるユーザー名またはグループ名を入力します
7. 「メニュー・ホットキー」フィールドにメニューにアクセスするためのホットキー・シーケンスを入力します。デフォルト設定は **^Z (Ctrl-Z)** になっています。
8. セッション・アクセスをユーザーに通知するには、「ユーザーに通知する」チェックボックスを有効にします。
9. ポート共有セッション中にモニターに表示されるデータの種類を構成するには、「スニフ・モード」プルダウン・メニューからオプションを選択してください。
10. 保存をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
11. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

#### **ポート・アラートと電子メール通知を有効にするには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定 → ポート → シリアル** をクリックします。
2. 構成するシリアル・ポートをクリックします。
3. サイド・ナビゲーション・バーで **アラート** をクリックします。
4. **ポート・アラートを有効にする** をクリックして、希望するテキスト・ストリングを「アラート・ストリング」フィールドに入力します。
5. 保存をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
6. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。
7. レポートタブに移動し、サイド・ナビゲーション・バーで **電子メール通知** をクリックします。
8. **追加** をクリックして、「電子メール通知の追加」ウィザードを起動します。次へ をクリックします。
9. 電子メール・アドレスのプロパティを構成します。次へ をクリックします。
10. 電子メール通知をトリガーさせたいイベントを選択して、「通知するイベント」ウィンドウに追加します。次へ をクリックします。
11. 電子メール通知をトリガーさせたいユニット・グループ（1 つまたは複数）を追加します。次へ をクリックして、完了 をクリックします。

## **シリアル・ポートのデータ・ログ**

ACSコンソール・サーバーではデータ・ログの次の方法がサポートされます。一度に有効にできるデータ・ログ方法は1つのみです。

- DSView 3サーバーの中央集中型データ・ログ：この方法では、シリアル・コンソール・セッションのデータ・ログおよびコンソール・サーバーに対する直接のSSH/Telnetセッションのデータ・ログが行われます。「データ・ログの構成」（ページ12）を参照してください。

- ACS コンソール・サーバーのローカル・データ・ログ。ここではデータはファイルまたはバッファに循環形式で保存されます。循環形式のデータ・ログ形式では、データは、ファイルの最大サイズに達するまで指定されたローカル・データ・ファイルに書き込まれ、その後は追加のデータ・ログが保存されるに伴ってデータは上書きされます。循環バッファリングでは、管理者は、データ・ログ・ファイルまたはバッファがその最大サイズに到達する前に、時間枠の間でデータを検査するためのプロセスを設定することが求められます。

### シリアル・ポートのデータ・ログを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *シリアル* をクリックします。
2. 構成するシリアル・ポートをクリックします。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *データ・ログ* をクリックします。
4. DSView 3サーバーのデータ・ログを有効にするには、*DSView 3データ・ログを有効にする*を選択します。  
—または—  
シリアル・ポートのデータ・ログを有効にするには、*アプライアンスの循環データ・ログを有効にする*を選択します。メニューから *バッファ* または *ファイル* のモードを選択して、該当するフィールドにファイル・サイズの上限（バイト数）を入力します。  
—または—  
ネットワーク・ファイル・システム（NFS）を利用したリモート・データ・ログを有効にするには、*リモートNFSデータ・ログを有効にする*を選択します。

**注：**リモートNFSデータ・ログを構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

- または—  
すべてのデータ・ログを無効にするには、*データ・ログを無効にする*を選択します。
5. （オプション）ACS コンソール・サーバーでホスト名を検出するには、*ホスト名の検出*を選択し、該当するフィールドにタイムアウト値（秒）を入力します。ACSコンソール・サーバーが指定時間内にホスト名を検出できない場合は、デフォルトのターゲット・デバイス名が使用されます。
6. *保存*をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
7. *要フラッシュ*をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## 電源装置の管理

DSView 3ソフトウェアでは、ACSコンソール・サーバーに接続されている以下の電源装置を構成して、管理することができます。

- アボセント電源管理配電装置（PM PDU）1000/2000/3000
- アボセントSPC電源制御装置

- Cyclades PMインテリ ジェント・ パワー・ ディストリ ビューション・ ユニット ( IPDU)
- Server Technology Sentry™ Switched CDU、Smart CDUおよびPTXLモデル

注: Server Technology Sentryモデルの構成と 管理は、DSView 3ソフトウェアを使用して行う必要があります。DSView 3サーバーでは、ACSコンソール・サーバーで選択したシリアル・ポート に対するServer Technology Sentryのライセンス機能を有効にすることができます。

## 電源管理装置の追加と取り 外し

**電源管理装置を追加または取り外すには :**

1. アプライアンスの設定 → ポート → 電源装置を順にクリックします。
2. 管理 ボタンをクリックして、「電源管理」ウィザードを起動します。次へ をクリックします。
3. 電源装置の追加 または 電源装置の取り外し オプション・ボタンを選択します。次へ をクリックします。
4. 電源装置が取り付けられている ACS コンソール・サーバーのシリアル・ポートの番号を選択します。
5. 電源装置を追加する場合は、ドロップダウン・リストから「電源装置のタイプ」を選びます。オプションは、アボセント／Cyclades、Server Tech、SPC電源装置の3つです。次へ をクリックします。DSView 3管理ソフトウェアにより、取り付けられている電源装置が追加されます。
6. 完了をクリックします。
7. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## HW過電流保護のリ セット

PDUに過電流保護機能があり、過電流の状態が発生した場合、HW過電流保護のリセット機能によって回路が再開されます。

**HW過電流保護をリセットするには :**

1. アプライアンスの設定 → ポート → 電源装置を順にクリックします。
2. サーキット・ブレーカーが作動したPDUを選択します。
3. HW過電流保護のリセット をクリックします。

## 電源装置の設定

電源装置タイプによって、構成するパラメーターは異なります。次表に、アボセントPM PDU、Cyclades PM IPDU、アボセントSPC電源制御装置、またはServer Technology Sentry CDUまたはPTXLモデルが使用されているときに表示可能なパラメーターの説明が記載されています。

**表 5：アボセントPM PDUおよびCyclades PM IPDUの構成パラメーター**

パラメーター	詳細
アプライアンス内の名前	電源装置に保存されている名前。
DSView内の名前	DSView 3ソフトウェアで電源装置に割り当てられた名前。
ファームウェアのバージョン	電源装置のファームウェアのバージョン。
ソケット数	電源装置のコンセントの総数。
モデル	電源装置のモデル名。
Syslog	Syslogメッセージを有効または無効にします。
ブザー	ブザーを有効または無効にします。
SW過電流保護	ソフトウェアの過電流保護を有効または無効にします。電源装置の電流がユーザー定義の電流のエラー（高）しきい値を超えると、この機能によって、コンセントに電源が投入されなくなります。
ポール・レート（ミリ秒）	電源装置で状態とデータのためにポールされる時刻の値。この値は500～10,000の範囲で設定します。
ベンダー名	電源装置の製造元の名前。
デフォルト 電圧（Cyclades PM IPDUのみ）	電源装置への給電での公称入力電圧。 <b>注：</b> 電源装置の一部には、適切な電圧センサーによる実際の入力電圧値の測定に対応していないものがあります。
電源係数（Cyclades PM IPDUのみ）	実際の出力と皮相電力との比率は、しばしばパーセンテージとして（0～1の間の値で）表されます。実際の出力は、特定時間枠での回路の作動容量で、皮相電力は、回路の電流と電圧を乗じたものです。
電源オフ／オン間隔	電源が再度オンに戻るまでにソケットで電源オフの状態が継続する秒数。
コールド・スタートの遅延	PDUのコールド・スタートの間、電源が再度オンに戻るまでにソケットで電源オフの状態が継続する秒数。
LEDディスプレイ	LEDディスプレイに設定される方向（通常または逆転）。LEDディスプレイは電流（アンペア）を表示します。 <b>注：</b> この構成をサポートするモデルで有効です。
LEDディスプレイ更新期間（秒）	LEDディスプレイが、次のフェーズまたはバンクに切り替えるまでに、現在のフェーズまたはバンクの電流を表示する秒数。 <b>注：</b> この構成をサポートするモデルで有効です。



表 6：アボセントのSPC電源制御装置とServer TechnologyのSentry CDUおよびPTXLモデルの構成パラメーター

パラメーター	詳細
アプライアンス内の名前	電源制御装置に保存されているアボセントの SPC 電源制御装置または Server Technology の Sentry CDU または PTXL モデルの名前。
DSView 内の名前	DSView 3 ソフトウェアで電源装置に割り当てられた名前。
状態	電源装置の状態（有効または無効状態）。 注：このパラメーターは、ACS コンソール・サーバーのファームウェアが 3.3.0 より前のバージョンの場合のみ表示されます。
バージョン	現行ファームウェアのバージョン。
合計負荷（アンペア）	電源装置の電流負荷の合計。 注：このパラメーターは、ACS コンソール・サーバーのファームウェアが 3.3.0 より前のバージョンの場合のみ表示されます。
合計最小負荷（アンペア）	電流の低下が既定の最小電流しきい値を下回ると、有効になっているトラップをトリガーします。この値は 0 ～ 30 の間で設定します。 注：このパラメーターは、ACS コンソール・サーバーのファームウェアが 3.3.0 より前のバージョンの場合のみ表示されます。
合計最大負荷（アンペア）	電流の読み取り値が既定の最大電流しきい値を上回ると、有効になっているトラップをトリガーします。この値は 0 ～ 30 の間で設定します。 注：このパラメーターは、ACS コンソール・サーバーのファームウェアが 3.3.0 より前のバージョンの場合のみ表示されます。
ソケット数	電源装置のコンセントの総数。
ポール・レート（ミリ秒）	電源装置で状態とデータのためにポールされる時刻の値。この値は 500 ～ 10,000 の範囲で設定します。
ベンダー名	電源装置の製造元の名前。
入力フィード	電源装置で使用する電源コンセントの個数。
モデル	電源装置のモデル名。
シーケンス間隔（Server Technology の Sentry CDU および PTXL モデルのみ）	複数のソケットに同時に電源投入する際の、各ソケット間の作動の遅延時間（秒数）（マスターの Server Technology Sentry CDU および PTXL モデルでのみ有効）。
再起動の遅延または電源オフ／オン間隔	電源が再度オンに戻るまでにソケットで電源オフの状態が継続する秒数（マスターの Server Technology Sentry CDU および PTXL モデルでのみ有効）。
デフォルト電圧	電源装置への給電での公称入力電圧。 注：電源装置の一部には、適切な電圧センサーによる実際の入力電圧値の測定に対応していないものがあります。
電源係数	実際の出力と皮相電力との比率は、しばしばパーセンテージとして（0 ～ 1 の間の値で）表されます。実際の出力は、特定時間枠での回路の作動容量で、皮相電力は、回路の電流と電圧を乗じたものです。

**電源装置の設定を変更するには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *電源装置* をクリックします。
2. 構成する電源装置を選択します。「設定」ページが表示されます。
3. 電源装置のパラメーターを変更します。詳細については、「アボセントPM PDUおよびCyclades PM IPDUの構成パラメーター」の表、「アボセントのSPC電源制御装置とServer TechnologyのSentry CDUおよびPTXLモデルの構成パラメーター」の表を参照してください。
4. *保存* をクリックして、変更内容をDSView 3ソフトウェアのデータベースに保存します。
5. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。
6. *閉じる* をクリックします。

**電源装置のソケット**

「電源装置ソケット」ページからは、個別または複数の電源ソケットに対する以下の操作を実行できます。

- 電源ソケットのオン／オフの切り替え
- 不用意な電源切り替えを防止するためのソケットのロック、またはソケットのロック解除
- 個々のソケットまたは複数のソケットで、指定電源投入間隔での電源のオフ／オン
- ACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーへの構成変更内容の保存

---

**注：**電源装置タイプによって、構成するパラメーターは異なります。

---

**個々の電源装置ソケットを構成するには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *電源装置* をクリックします。
2. 構成する電源装置を選択します。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *ソケット* をクリックします。
4. ソケット（1つまたは複数）の隣のチェックボックスを有効にすることで次の操作を実行できます：
  - 「オン」または「オフ」ボタンをクリックしてソケットの電源を切り替えます。
  - 「電源オフ／オン」ボタンをクリックしてソケットを瞬時オフにしてから再度オンにします。
  - 「ロック」ボタンをクリックして不用意な電源切り替えを防止するか、またはロック解除をクリックしてソケットのロックを解除します。
  - *状態の保存* をクリックして、コンセントに加えた変更を保存します。

5. ソケット（1 つ）をクリックして設定を変更します。「電源装置ソケットのパラメーター」の表を参照してください。

表 7：電源装置ソケットのパラメーター

設定	詳細
ソケット	電源装置のコンセントの数を表示します。
名前	電源装置のコンセントの名前を割り当てるまたは変更します。
POSTオン遅延時間	1つのコンセントに電源が投入されてから、それ以降のコンセントに電源が投入されるまでの遅延時間（秒）。
POSTオフ遅延時間	1つのコンセントの電源が切断されてから、それ以降のコンセントの電源が切断されるまでの遅延時間（秒）。
最小オン時間（アボセントSPC電源制御装置のみ）	コンセントがオフになるまでにオン状態を継続する最小時間。有効な値は、0秒、15秒、30秒、45秒、1分、1分15秒、1分30秒、1分45秒、2分、3分、4分、5分、10分、15分、30分、1時間です。
最小オフ時間（アボセントSPC電源制御装置のみ）	コンセントがオンになるまでにオフ状態を継続する最小時間。有効な値は、0秒、15秒、30秒、45秒、1分、1分15秒、1分30秒、1分45秒、2分、3分、4分、5分、10分、15分、30分、1時間です。
ウェイク・アップ状態	コールド・ブート後のコンセントの状態。オン、オフまたは最後に保存した状態に設定することができます。 注：ウェイク・アップ状態は、ServerTechとSPC PDUには適用されません。

## 電源装置の電流

「電流」ページを使用して、PDU、コンセント、フェーズ、バンクの電流に関する情報を表示および構成できます。このページは、ACSコンソール・サーバーのファームウェアのバージョンが3.3.0以降の場合に表示されます。次表でパラメーターについて説明します。

表 8：電源装置の電流パラメーター

パラメーター	詳細
ID	要素の一意的ID。
範囲	要素のタイプ（PDU、フェーズ、バンク、またはコンセント）。
名前	要素の名前（PDUまたはコンセントのみ）。
値（アンペア）	計測された電流の値（アンペア）。
最大（アンペア）	計測され、記録された最大値（アンペア）。 注：「最大（アンペア）」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
最小（アンペア）	計測され、記録された最小値（アンペア）。 注：「最小（アンペア）」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。

### 電源装置の電流パラメーターを変更するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *電源装置* をクリックします。
2. 構成する電源装置を選択します。
3. サイド・ナビゲーション・バーで *通信* をクリックします。
4. 構成する電流を選択します。
5. 「電流のエラー（高／低）しきい値」および「電流の警告（高／低）しきい値」を設定します。最小または最大のしきい値に達した時に送信されるトラップを設定することができます。
6. *保存* をクリックして変更内容を保存します。

## 電源装置の電圧

「電圧」ページを使用して、PDU、コンセント、フェーズ、バンクの電圧に関する情報を表示できます。このページは、ACSコンソール・サーバーのファームウェアのバージョンが3.3.0以降の場合に表示されます。次表でパラメーターについて説明します。

表 9：電源装置の電圧パラメーター

設定	詳細
ID	要素の一意のID。
範囲	要素のタイプ（PDU、フェーズ、バンク、またはコンセント）。
名前	要素の名前（PDUまたはコンセントのみ）。
値（ボルト）	計測された電流の値（ボルト）。
最大（ボルト）	計測され、記録された最大値（ボルト）。 注：「最大（ボルト）」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
最小（ボルト）	計測され、記録された最小値（ボルト）。 注：「最小（ボルト）」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
測定	PDUが電圧検出をサポートしている場合は電圧を計測できます。また、ユーザーが公称電圧を構成する必要があるPDUの場合は、電圧を推測することができます。

## 電源装置の電力消費量

「電源」ページを使用して、PDU、コンセント、フェーズ、バンクの電力消費量に関する情報を表示できます。このページは、ACSコンソール・サーバーのファームウェアのバージョンが3.3.0以降の場合に表示されます。次表でパラメーターについて説明します。

表 10 : 電源装置の電力消費量のパラメーター

設定	詳細
ID	要素の一意のID。
範囲	要素のタイプ (PDU、フェーズ、バンク、またはコンセント)。
名前	要素の名前 (PDUまたはコンセントのみ)。
値 (ワット)	計測された電流の値 (ワット)。
最大 (ワット)	計測され、記録された最大値 (ワット)。 注: 「最大 (ワット)」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
最小 (ワット)	計測され、記録された最小値 (ワット)。 注: 「最小 (ワット)」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
測定	PDUが電圧検出をサポートしている場合は電力消費量を計測できます。また、ユーザーが公称電圧を構成する必要があるPDUの場合は、電力消費量を推測することができます。
電源係数	実際の出力と皮相電力との比率は、しばしばパーセンテージとして (0~1の間の値で) 表されます。実際の出力は、特定時間枠での回路の作動容量で、皮相電力は、回路の電流と電圧を乗じたものです。

## 電源装置の環境

「環境」ページを使用して、PDUの環境に関する情報を表示できます。このページは、ACSのファームウェアのバージョンが3.3.0以降の場合に表示されます。次表でパラメーターについて説明します。

表 11 : 電源装置の環境パラメーター

設定	詳細
センサー	センサー ID。
名前	センサーの名前。
タイプ	センサーのタイプ。
値	センサーの電流の値。
最大	センサーによって記録された最大値。 注: 「最大 (ワット)」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
最小	センサーによって記録された最小値。 注: 「最小 (ワット)」の値は、「数値のリセット」ボタンを使用してリセットできます。
しきい値	アラームを鳴らすしきい値です。
アラーム	優先順位が最も高いアクティブなアラームです。センサーが構成されたしきい値のいずれかに達したことを示しています。

### 電源装置の環境パラメーターを変更するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで **アプライアンスの設定** → **ポート** → **電源装置** をクリックします。
2. 構成する電源装置を選択します。

3. サイド・ナビゲーション・バーで *環境* をクリックします。
4. 構成するセンサーを選択します。
5. 「センサーのエラー（高／低）しきい値」および「センサーの警告（高／低）しきい値」を設定します。最小または最大のしきい値に達した時に送信されるトラップを設定することができます。
6. *保存* をクリックして変更内容を保存します。

## ホスト名の検出

---

**注：**ホスト名検出のストリングを構成するには、ACSコンソール・サーバーにバージョン3.2.0以降のファームウェアが必要です。

---

カスタマイズされた検査／応答ストリングを構成して、ACSコンソール・サーバーがホスト名を検出する際のフレームワークを提供することができます。構成されたストリングは、すべてのシリアル・ポートに有効です。検査／応答ストリングが一覧表示され、これを使ってシリアル・ポートに接続されたデバイスを検査し、ホスト名を抽出します。詳細については、Cyclades ACSの「インストール・管理およびユーザー・ガイド」およびCyclades ACSの「コマンド・リファレンス・ガイド」を参照してください。

---

**注：**検査ストリングを使用するには、C言語などのエスケープ・シーケンスの知識が必要です。応答ストリングを使用するには、POSIX拡張正規表現の知識が必要です。

---

**注意：**ホスト名は31文字を超えると切り捨てられます。ホスト名の最初の31文字だけがシリアル・ポートのエイリアスに割り当てられます。

---

### ホスト名検出の検査／応答ストリングを構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *ホスト名の検出* をクリックします。
2. 「ホスト名の検出検査ストリング」フィールドに、検査ストリングの範囲を入力します。検査ストリングがシリアル・ポートに接続されたデバイスに送信されます。
3. 「ホスト名の検出応答ストリング」フィールドに、応答ストリングの範囲を入力します。応答ストリングがシリアル・ポートに接続されたデバイスから受信されます。
4. *保存* をクリックします。

## TCPポートの構成

TCPポートの番号はデフォルト設定では7001（シリアル・ポート1用）から始まっており、この番号はコンソール・サーバーがサポートするシリアル・ポートの数まで漸増的に（1ずつ）増加します。例えば、ACSコンソール・サーバーにシリアル・ポートが8つある場合、TCPポートの7001から7008までを使用します。これらのポートがシステム内で既に使用されている場合、デフォルト設定が重複しエラーが発生する可能性があります。この場合は、シリアル・ポート用のデフォルト設定のTCPベース・ポートを変更してください。

**デフォルト設定のTCPベース・ポートを変更するには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *ポート* → *TCPポート* をクリックします。
2. 新しいベース・ポートを該当するフィールドに入力します。
3. *保存* をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
4. *要フラッシュ* をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

**ACSコンソール・サーバーのTCPとUDPポート の用途**

DSView 3ソフトウェアのプラグインとACSコンソール・サーバーとの間の通信は、標準の接続またはプロキシ・サーバーを介して行われます。ACSコンソール・サーバーでは、SSH（セキュア・シェル・プロトコル）が使用されます。ポート使用情報については、「ACSコンソール・サーバー通信ポート」の表を参照してください。

**表 12：ACSコンソール・サーバー通信ポート**

ポートID	詳細
TCP 3871	アボセントDS認証プロトコル（ADSAP2）。セッション認証に使用。
TCP 1078	アボセント・シリアル・ビューア・ポート（プロキシ・モード）。
TCP 4122（デフォルト）	SSHサーバー・ポート。
TCP 4514（デフォルト）	データ・ログ・サーバー・ポート。
UDP 3211	アボセント・インストール／検出プロトコル（AIDP）。IP構成に使用。
UDP 162	SNMPトラップ・ポート。ACSコンソール・サーバー・ポートがSNMPトラップをDSViewソフトウェア・サーバーに送信するように構成されている場合に使用。

**セッション設定の構成**

「セッション」メニューからは以下のタスクを実行できます：

- ・ アクティブ・セッション、各ターゲット・デバイスにログインしているユーザー、およびそれらの接続期間の表示。
- ・ ユーザー・セッションの終了およびターゲット・デバイスからのそれらの接続解除。
- ・ ユーザーがログオフされるまでセッションをアイドル状態にしておける最大秒数（アイドル・タイムアウト）の設定。
- ・ 複数ユーザーの設定（全シリアル・ポートに対して有効）の構成。

**アクティブ・セッションをモニターするまたはアイドル・タイムアウトを設定するには：**

1. サイド・ナビゲーション・バーで *アプライアンスの設定* → *セッション* → *アクティブ* をクリックします。
2. ユーザー・セッションを終了するには、ターゲット・デバイスの隣に付いているチェックボックスを有効にして、*接続解除* ボタンをクリックします。

3. 要フラッシュ をクリックします。
4. アイドル・タイムアウトを設定するには、セッション → 設定 → シリアル を順に選択します。
5. 「アイドル・タイムアウト」フィールドに、値（秒数）を入力します。
6. 保存 をクリックして、変更内容をDSView 3ソフトウェアのデータベースに保存します。
7. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

#### マルチユーザーの設定を構成するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで アプライアンスの設定 → セッション → マルチユーザー をクリックします。
2. 複数のセッションを有効にするチェックボックスを有効にします。
3. 「複数セッションの設定」のプルダウン・メニューからいずれかのオプションを選択します。利用可能なオプションについては、表4（ページ 16）を参照してください。
4. 「特権ユーザー」フィールドに、マルチユーザー共有セッションへのアクセス権があるユーザー名またはグループ名を入力します。
5. 「メニュー・ホットキー」フィールドにメニューにアクセスするためのホットキー・シーケンスを入力します。デフォルト設定は`^Z (Ctrl-Z)`になっています。
6. セッション・アクセスをユーザーに通知するには、「ユーザーに通知する」チェックボックスを有効にします。
7. ポート共有セッション中にモニターに表示されるデータの種類を構成するには、「スニフ・モード」プルダウン・メニューからオプションを選択してください。
8. 保存 をクリックして、変更内容をDSView 3サーバーのデータベースに保存します。
9. 要フラッシュ をクリックして、変更内容をACSコンソール・サーバーのフラッシュ・メモリーに保存します。

## ACSコンソール・サーバーへの接続名の変更

「アプライアンスの接続」ウィンドウでは、接続パスの一部をなすACSコンソール・サーバー、ターゲット・サーバーまたは電源管理装置の名前を変更できます。

#### ACSコンソール・サーバー接続の名前を変更するには：

1. サイド・ナビゲーション・バーで 接続 をクリックします。
2. 接続をクリックして「アプライアンスの接続 - 名前の変更」ページを開きます。
3. 接続されている1つまたは複数のデバイスに対する新しい名前を入力します。名前の自動プッシュ機能が有効になっている状態で名前を変更すると、設定されているプッシュ・プロパティに基づいて新しい名前がACSコンソール・サーバーにプッシュされます。
4. 保存 をクリックしてから 閉じる をクリックします。





**For Technical Support:**  
[www.avocent.com/support](http://www.avocent.com/support)